

名古屋市市長賞

安定した未来のために

名古屋市立城山中学校 3年

飯田 彩華

私は小学三年生の時に「こどものまち」というイベントに参加し、「納税の義務」を模擬体験した。そこには子どもだけが入場し、まずハローワークに行き仕事を選ぶ。三十分程度の仕事をするとう銀行からお金が払われるのだが、税務署に行き一割程度の税金を納めなければならない、残ったお金で食べたり、遊んだりできるという仕組みになっていた。私達は、最初、せっかくもらったお金の一部を何故、強制的に払われるのか理解できず、不当な目にあっている気がして、みんなでわいわいと母に電話をした。すると母から「こどものまち」独自の制度ではなく、国なども働いたお金の中から税金を払うことで成り立っているという説明を受け、非常に驚いた。驚きつつもみんな一応納得し、その後は「納税の義務」を果たしながら、イベントを楽しんだ。この体験は税金の仕組みを理解するきっかけとして非常に有益だった。ただ、納税に積極的な感情を持つには至らなかった。その根底には、国や県や市は安泰な存在だという安心感があつたのだと思う。

ところが最近、北海道の夕張市が二十年近く前に財政破綻し、国などの支援を受けて再建に取り組んでいるということを知った。私は「市が財政破綻する」という事実には驚き、財政破綻した理由や、財政破綻が市民の生活に与える影響について調べてみた。

夕張市が財政破綻した原因は、炭鉱の閉山により人口が急激に減少したことに端を発し、

夕張市が住宅・教育・福祉などの社会生活基盤を整備・維持しようとしたこと、行政体制の効率化が遅れたこと、観光施設に過大な投資をしたことなどにあるようだ。

財政破綻した結果、夕張市は名古屋市の二倍以上の面積を有するにもかかわらず、小・中学校は各一校に統合されるなど、市民生活が激変する改革が断行され、税金は値上げされ、ごみ処理などは有料となった。「全国で最高の負担、最低の行政サービス」と言われ人口流出が止まらず、現在は、財政破綻時の人口の半分程度にまでなっている。

夕張市の現実には衝撃的で、安定した財政の大切さを痛感した。国・愛知県・名古屋市の財政状況を適切に判断する能力は、今の私には無い。ただ、税収不足を補うための公債がかなり発行されていること、人口が減少していることを考えると安泰とまではいえない。その中で、小・中学生一人に、年間100万円以上もの税金が使われていることを知り、未来を託されている重みを感じた。今さらながら無償で参加できた「こどものまち」にも、私達を信じ、託す思いがあることに気づいた。

三年余りで私も成人する。安定した未来のために、まずは国などの財政状況や適切な税の使い道について、判断できる知識を身につけたい。納税の義務は意欲的に果たしたい。一人一人の地道な努力があれば、明るい未来があると信じている。